



ウポポイ

NATIONAL AINU MUSEUM and PARK

民族共生象徴空間



ウポポイPRキャラクター
トレッポん

2020.4.24 OPEN

アイヌ文化復興等に関するナショナルセンターとして

自然豊かな白老町ポロト湖畔に誕生する「ウポポイ(民族共生象徴空間)」は、

先住民族アイヌの歴史や文化に関する幅広い理解の促進を図り、

未来へ向けてアイヌ文化の継承と新たなアイヌ文化の創造発展を推進。

中核施設として「国立アイヌ民族博物館」や「国立民族共生公園」が整備されます。



※本イメージ図は、設計段階における案であり、変更の可能性あります。(提供:文化庁)

※イメージ

白老町ポロト湖畔から、
世界へ、未来へ、
アイヌ文化を発信。

国立アイヌ民族博物館



(提供:文化庁)

※イメージ

基本理念

国立アイヌ民族博物館では、先住民族アイヌの尊厳を尊重する姿勢を持ち、アイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を国内外に広めることを使命とします。新たなアイヌ文化の創造及び発展に寄与します。

国立民族共生公園



(提供:国土交通省)

※イメージ

基本理念

国立民族共生公園は、対話や交流を通じてアイヌ文化を体感できる体験型のフィールドミュージアムです。豊かな自然を活用した憩いの場は、異なる民族が互いに尊重し共生する社会のシンボルとなるような空間を目指します。

アイヌ文化・ガイド教本
【副読本】

今を生きる
アイヌが語る
「これまで」と
「これから」



ご利用案内	《営業日》	期 間	営業時間	《入 場 料》	《各種設備》
	《休業日》	毎週月曜日(祝休日の場合はその翌日以降)及び年末年始			
		令和2年 4月24日～令和2年 7月19日	平日 9:00～18:00 土日祝日 9:00～20:00	大 人(個人) ……1,200円 大 人(団体) ……960円	●多言語解説 ●バリアフリー対応 ●車椅子、ベビーカーの貸し出し ●無料Wi-Fi
		令和2年 7月20日～令和2年 8月31日	9:00～20:00	高校生(個人) ……600円 高校生(団体) ……480円	
		令和2年 9月 1日～令和2年10月31日	平日 9:00～18:00 土日祝日 9:00～20:00	中学生以下 ……無料	
		令和2年11月 1日～令和3年 3月31日	9:00～17:00		

※「団体」は20名以上が対象となります。

お問い合わせ先

公益財団法人アイヌ民族文化財団民族共生象徴空間運営本部
○メール / info@ainu-upopoy.jp ○電話 / 011-206-7427
○受付時間 / 平日9:00～17:00

ウポポイ 検索 <https://ainu-upopoy.jp/>



ウポポイ
公式サイト



ウポポイ
facebook



ウポポイ
instagram

◎発行／お問合せ先

公益財団法人北海道観光振興機構

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目 緑苑ビル1階 TEL.011-231-0941 FAX.011-232-5064

北海道観光に関する情報は

GoodDay北海道 検索

<https://www.visit-hokkaido.jp/>

※本誌掲載の情報は2019年11月現在の情報です。



アイヌの視点や 考えを反映する 私たちの博物館。

公益財団法人アイヌ民族文化財団
民族共生象徴空間運営本部 副本部長
村木 美幸さん



アイヌ関連施設

《アイヌ民族の歴史・文化を学ぶ》

ウポポイ（民族共生象徴空間）



アイヌ文化復興等に関するナショナルセンターとして自然豊かな白老町ポロト湖畔に誕生する「ウポポイ（民族共生象徴空間）」は、先住民族アイヌの歴史や文化に関する幅広い理解の促進を図り、未来へ向けてアイヌ文化の継承と新たなアイヌ文化の創造発展を推進。中核施設として「国立アイヌ民族博物館」や「国立民族共生公園」が整備されます。

《アイヌ民族の歴史・文化を学ぶ》

知里幸恵 銀のしずく記念館



アイヌ語のローマ字表記をより洗練されたものにした『アイヌ神謡集』の著者、知里幸恵（1903-1922）の功績を称える記念館。『アイヌ神謡集』をはじめ、直筆の手紙や日記帳、アイヌ語のノートなどが展示されており、その生涯と業績に触れることができます。

定休 火曜・冬季休館（12月20日～2月末）

時間 9:30～16:30

住所 登別市登別本町2丁目34-7

提供：国土交通省北海道開発局

ウポポイを通して、お互いを尊重しあう心を育む。

ウポポイはアイヌ文化を専門に扱う初めての国立博物館であり、さまざまな体験プログラムをおこなう施設。基本構想や計画の検討から準備までたくさんのアイヌが関り、アイヌの視点や考えを反映した私たちの博物館です。

ウポポイではアイヌ語が公用語となるよう展示解説や施設表示をアイヌ語で表記するなどアイヌ語が積極的に使われる空間を目指しています。消滅危機言語とされているアイヌ語の言語復興の場としてもウポポイが機能すると思っています。

ウポポイでは、伝統的なアイヌ文化に加えて現代のアイヌに

ついても積極的に情報発信していきたいと思っています。アイヌ文化に触れることで違いを認め、多様性を受け入れ、互いを尊重し合う心を育てる、多くの人たちにとってウポポイがそんな場であってほしいと願っています。大事なのは、ウポポイを通して好影響を全道に波及させていくこと。各地と連携する体制づくりを心がけ、事業を進めていきたいと思っています。ウポポイを訪れた人には、自身の文化を再確認したり、考えたりと、心の琴線に触れる体験をして帰っていただければ嬉しいですね。ウポポイの一番のお土産になると思います。

祈る

アイヌ民族は、自然現象や動植物、人間の作る道具などのすべてに魂が宿り、それらは神の世界から使命を担って降臨すると考えます。その中には、人間にとって有益なものだけでなく、天災や病気などもあり、人間の力の及ばないもの・事象なども含まれます。人間は、食べるもの、着るもの、住む家など、毎日の暮らしに必要な有形無形のものの多くを神から授かり、それに対し人間からは、返礼の意味で儀礼《カムイノミ》を通じて祈りと供物を捧げます。神は、人間からの感謝を得て、一段と位の高い神になると言われ、相互の協力が平和な暮らしを継続させるものと考えます。よく知られた儀礼として「霊送り」があります。

アイヌ語地名

- 洞爺／とうや（洞爺湖町）→ トー・ヤ「湖・岸」
- 久保内／くぼない（壮瞥町）→ ク・オ・ナイ「仕掛け／多くある・沢」
- 倶多楽／くつたら（白老町）→ クツタルシト「虎杖浜の湖」
- 虎杖浜／こじょうはま（白老町）→ クツラ・ウシ・イ「イタドリ・群生する・所」

〈引用〉
北海道立アイヌ民族文化研究センター編
『ボン カンビソシ9 アイヌ文化紹介小冊子「地名」』
北海道アイヌ政策局アイヌ政策課ホームページ
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/ass/index.htm>

伝統の食が、 アイヌ女性の 誇りになる。

札幌アイヌ協会副会長
アイヌ女性会議メノコモシモン代表
多原 良子さん

アイヌの女性たちが輝ける場を。

メノコモシモンとは、アイヌ語でメノコ(女性)・モシモン(目覚める)という意味。駅弁「イランカラッテ弁当」など、伝統的な「食」を通じてアイヌの文化や知恵を発信するため、そして、アイヌの女性たちが元気に活躍するための活動をしています。

設立のもとと目的は、先住民族として、女性として「複合差別」を受けているアイヌ女性の権利回復でした。しかし、ストレートに差別の撤廃を訴えるよりも、まずはアイヌ民族の食を通して興味を持ってもらうほうが良いと考えました。

イタリアのトリノで開催された世界最大級の食のイベント「テッラ・マードレ2018」で、アイヌの食と歴史・文化を紹介し、シンポジウムで発表もしました。パフォーマンススペースでアイヌ舞踊を披露して、会場が盛り上がったのもいい思い出です。

歌も踊りもできるし、美しい工芸もあるし、私たちはアイヌ文化の魅力を再発見しました。それが自信となって、アイヌ民族の誇りを持てるようになりました。そして、世界のどこにもない食文化は私たちの誇りです。大切なアイヌの食文化をこれからも発信していきたいですね。



アイヌ関連施設

《アイヌ民族の歴史・文化を学ぶ》 サッポロピリカコタン



北の大地に先住し独特の文化を育んできたアイヌ民族の生活や歴史、文化などを楽しみながら学ぶことができます。展示室には伝統衣装や民具など約300点が展示され、触れることができます。

時間 8:45～22:00 ※展示室と庭園は9:00～17:00
定休 月曜、祝日、毎月最終火曜日、年末年始
住所 札幌市南区小金湯27

《アイヌ食文化体験》

ケラピリカ ～アイヌ料理のお店～



独立して25年のシェフが自身のルーツであるアイヌ料理や文化を発信するスペースとしてオープン。ムスリム、ヴィーガン、五臓フリーなど食の多様性への対応を準備中。

時間 11:30～14:00、18:00～22:30
※土曜は18:00～22:30のみ
定休 日曜・祝日
住所 札幌市中央区北1条西3丁目 古久根ビルB1F

食べる

かつて食料の多くを自然の恵みに頼っていたアイヌ民族は、安定的な食料の確保のため、狩猟・漁撈・山菜採集・農耕など調達方法をいくつにも分散していました。狩猟・漁撈は主に男性の仕事、山菜採集・農耕は女性の仕事とされますが、状況に応じ男女が協力して行うことも珍しくありません。現在のアイヌ民族の食糧事情は国内の他の人々と同じですが、伝統儀式用として、また健康を維持するため、さらには何よりその料理が美味しいという理由で現在でも作られているものがあります。代表的なものとして、肉・魚・山菜などを煮込んだ汁物《オハウ》があります。

アイヌ語地名

- 炭戸／ばらと(札幌市)→バラ・ト「広い・湖」
- 平岸／ひらぎし(札幌市、芦別市)→ピラ・ケシ「産・(の)端」
- オタモイ(小樽市)→オタ・モイ「砂浜・(の)入り江」

〈引用〉
北海道立アイヌ民族文化研究センター編
『ボン カンピソッ9 アイヌ文化紹介小冊子「地名」』
北海道アイヌ政策局アイヌ政策課ホームページ
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/ass/index.htm>

現代アートと アイヌ文化と 融合の先に。

北の工房 つとむ 店主
貝澤 徹さん

それぞれの得意分野で、アイヌ文化を高めていければ。

高校卒業後に観光土産を彫っていた頃、木彫家の藤戸竹喜さんから小さな熊の写実彫刻をいただきました。それに衝撃を受けて写実的な動物を彫り始め、30代半ばに曾祖父の貝澤ウトレントクのイタ(お盆)を複製したことを機にアイヌ文様を彫るようになりました。

それから「アイデンティティ」や「UKOUKU(ウコク)／輪唱」など、アイヌの伝統文化と現代アートを融合させた作品を作り始めました。私の作品には、どこかに必ずアイヌの伝統的技法を取り入れています。単なるアートでは意味がありませんから。

最近、特に多いお客様は「ゴールデンカムイ」のファンの方々。マンガやアニメの影響力を実感します。作者の野田サトル先生の依頼で作ったマキリ(小刀)が、キロランケというキャラクターのマキリとして登場してから、マキリの注文が急増したんですよ。

ウポポイ・オープンを契機として、それぞれが得意な分野を極めて、アイヌ文化を高めていけたらと思います。その中で、私は職人として、木彫をもっと極めていきたいですね。



アイヌ関連施設

《アイヌ民族の歴史・文化を学ぶ》

平取町立二風谷アイヌ文化博物館



アイヌ文化を正しく受け継ぎ、未来へと伝えていくことがコンセプト。民具や工芸品など、人間と神と自然が一体となったアイヌの暮らしと文化を伝える展示資料のほか、アイヌに伝わるコカラ(英雄叙事詩)の映像など視聴覚資料も充実しています。

時間 9:00～16:30

定休 月曜(11月16日～12月15日、1月16日～4月15日)、
12月16日～1月15日は休館

住所 沙流郡平取町二風谷55

《アイヌ民族の歴史・文化を学ぶ》

萱野茂 二風谷アイヌ資料館



前館長の萱野茂氏が約半世紀にわたって収集したアイヌ民具をはじめ、世界の先住民族の民具や絵画など計千点以上を展示。暮らしに息づく思想や信仰などを学ぶことができます。現館長は萱野志朗氏。

定休 特になし

※12月～3月は、(01457)2-3295まで要事前連絡

時間 9:00～17:00 住所 沙流郡平取町二風谷79-4

工芸

物には魂が宿ると考え、自らが製作した道具も他から交易によって奨励された道具も、共に生あるものとして大切に取り扱いました。使用に耐えなくなった道具は、祭壇で丁寧な感謝や供物を添えて、その魂を神の国に送り返しました。日常生活に使用された道具類は、『ヤウンモシリ』(北海道)に植生する樹木の堅さや重さなど、その素材の特徴を活かして作られ、機能性が高く造形的な美しさも併せ持っています。

アイヌ語地名

- 平取／びらとり(平取町)→ピラ・トゥル「崖・の間」
 - 平賀／ひらが(日高町)→ピラ・カ「崖・(の)上」
 - 乳呑／ちのみ(浦河町)→チ・ノミ・シリ「我ら・祈る・山」
- 〈引用〉
北海道立アイヌ民族文化研究センター編
『ボン カンビソッ9 アイヌ文化紹介小冊子「地名」』
北海道アイヌ政策局アイヌ政策課ホームページ
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/ass/index.htm>

母が残した 歌や踊りを 次に伝えたい。

帯広カムイトウポボ保存会会長
酒井 奈々子さん

観光地以外で頑張るアイヌのことも知ってほしい。

物心つく前から、母がお婆さんたちにウポボ（座り歌）を習う姿を見ながら育ち、自然とアイヌの歌や踊りに触れていました。アイヌへの差別がひどい時代にも、母たちがアイヌの歌や踊りを残してくれたことには本当に感謝しています。

帯広カムイトウポボ保存会は、平成26年に発足50周年を迎えました。現在の会員数は50名弱ですが、小学生や中学生などの若い世代が多いのが特徴です。若い子たちが楽しみなから一生懸命にやっている姿を見るのはとても嬉しいですね。

アイヌの踊りは見よう見まねでできるようになります。歌はそうはいきません。アイヌ独特の節回しや、自分の声と裏声をきれいにし出す、これが今の子にはできません。このままでは、本当のウポボが途絶えてしまうのではないかと危惧しています。

観光客のみなさんは、阿寒や白老、二風谷などの観光地にしかアイヌがいらないと思うかもしれません。でも十勝にもアイヌはいますし、観光地ではない場所にもアイヌがいて、みなさんと同じように生活していることを知っていただきたいですね。



アイヌ関連施設

《アイヌ民族の歴史・文化を学ぶ》
帯広百年記念館



アイヌ文化をはじめ、十勝の歴史・産業・自然を紹介する施設。館内に設置されたアイヌ民族文化情報センター「リウカ」では、書籍や視聴覚資料の利用も可能です。

時間 9:00～17:00

定休 月曜（祝日は開館）、祝日の翌日（土・日は開館）
年末年始

住所 帯広市緑ヶ丘2

《アイヌ食文化体験》

亜細亜食堂 ポンチセ



店主が長く滞在していたインドネシア料理やその他アジア料理、そして、子どもの頃から慣れ親しんだアイヌの家庭料理を基本に、十勝産の素材を活かしながら、様々なメニューを提供しています。

時間 18:00～24:00 定休 水曜日

住所 帯広市西1条南10-7 北の屋台

歌う

各地域に伝承されてきた歌《ウポボ》は独唱と、数人で歌うものがあります。独唱するものはメロディも歌詞も自由度が高く、歌い手の気分に合わせ即興性を発揮しながら歌います。数人で歌うものは、メロディも歌詞も比較的地型的です。数人で歌うものはウポボやヘチリと言い、1人の歌い手がリードとなり、交唱や輪唱の形で1つの歌を繰り返して歌います。リードが音程を変えたり、別な歌に切り変えると、ほかの歌い手はそれについていきます。こうして、次々に歌を変えながら歌い続け、しばしばかなりの時間にわたって歌い続けることもあります。

アイヌ語地名

- 札内／さつない（幕別町）→ サツ・ナイ「乾いている・川」
- 本別／ほんべつ（本別町・鹿部町など）→ ボン・ベツ「小さい・川」

〈引用〉

北海道立アイヌ民族文化研究センター編
『ボン カンベソッ9 アイヌ文化紹介小冊子「地名」』
北海道アイヌ政策局アイヌ政策課ホームページ
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/ass/index.htm>

知的財産で、 アイヌの 経済的自立を。

一般社団法人 阿寒アイヌコンサル 理事長
廣野 洋さん

世界に認知されれば、それがアイヌの自信になる。

アイヌ民族による新法人「一般社団法人・阿寒アイヌコンサル」を設立しました。いわばアイヌ文化専門のコンサルティング会社で、一番の目的はアイヌの知的財産権の保護です。阿寒アイヌのブランド化で収益を生み、経済的自立につなげていきたいですね。

世界の先住民族の事例を参考に、観光地でのアイヌの生き方も模索しています。広域周遊ルート「ユーカラ街道」では、歓迎の「カムイノミ」という儀式を行う予定。アイヌ文化について自分の言葉で語れるガイドも、阿寒で5人以上は育てたいと思っています。

阿寒湖アイヌシアターイコロの新プログラム、阿寒ユーカラ「ロストカムイ」も好評です。狩りをする神と呼ばれたエゾオオカミをテーマに、アイヌ古式舞踊、現代舞踊、デジタルアートを融合させた立体的なステージです。ぜひ多くの方にご覧いただければ。

先住民族として国に認められたことは非常に大きいことです。私たちには、アイヌ文化を伝承していく使命があります。阿寒の観光では、これまでもアイヌと和人が協力してやってきました。コンサルを通じてみんなが豊かになること、これが今の目標です。



アイヌ関連施設

《アイヌ民族の歴史・文化を学ぶ》

阿寒湖アイヌコタン
アイヌシアター イコロ



アイヌ語で「宝」を意味する阿寒湖アイヌシアター「イコロ」では、ユネスコ世界無形文化遺産である「アイヌの舞踊」の鑑賞を通じて、自然と共存してきたアイヌ文化への理解を深めることができます。

時間 9:00～21:30(受付時間) 定休 不定休

住所 釧路市阿寒町阿寒湖温泉4丁目7-84

「イオマンテの火まつり」「ロストカムイ」など、各公演についてはウェブサイトでご確認ください。

《アイヌ食文化体験》

民芸喫茶ポロンノ



阿寒湖の温泉街にある名店。祖母から伝わるアイヌ料理のほかに、オリジナリティにあふれた料理の数々を味わうことができます。

時間 5～10月は12:00～21:30

11～4月は12:30～21:00

※冬季は要予約 ※15:00～18:30はクローズ

定休 不定休

住所 釧路市阿寒町阿寒湖温泉4丁目7-8

踊る

各地域に伝承されてきた踊り《リムセ》は輪を作って大勢で踊るもの、鳥の動きをまねた「鶴の舞(サロルンチカプリムセ)」、様々な「鳥の舞(チカプリムセ)」などがあります。また、男性が踊る「剣の舞(エムシリムセ)」、「弓の舞(クーリムセ)」といった踊りは、踊り手の個性が強く発揮され、しばしば踊りの動きや構成が変わります。遊戯的な要素を持った踊りとしては、ネズミに扮した踊り手が人間につかまらぬように食べ物をとる踊り、向き合った二人が落とさぬように注意しながら盆や棒をやり取りする踊りがあります。

アイヌ語地名

- 磯分内ノいそぶんない(標茶町)
→イソボ・ウン・ナイ「ウサギ・いる・沢」
- 幣舞ノぬさまい(釧路市)
→ヌサ・オマ・イ「祭壇・ある・ところ」

〈引用〉

北海道立アイヌ民族文化研究センター編

『ボン カンビソッ9 アイヌ文化紹介小冊子「地名」』

北海道アイヌ政策局アイヌ政策課ホームページ

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/ass/index.htm>

手作りの アイヌ料理で おもてなし。

酋長の家
梅澤 悦子さん



知れば知るほど、私たちのアイヌ文化は素晴らしい。

「酋長の家」という名前は、私の父の志富イサネが、阿寒のアイヌコタンの酋長だったことが由来です。阿寒で民芸店を営んでいた父が、知床にもお店を出すことになって。その後、母の意願だった民宿をスタートさせ、現在の民芸店・民宿の営業になりました。

食事も館内の雰囲気もごく普通の民宿でしたが、「アイヌの宿だと聞いてきたのに、全然アイヌらしくないんですね」というお客様の一言で目が覚めて。それからは館内の装飾に工芸品や道具類を飾り、メニューにも少しずつアイヌ料理を取り入れていきました。

メニューは伝統的なアイヌ料理をアレンジしていますが、昔から料理はすべて手作りで、地場産の食材にこだわっています。夕食時にはお客様の席にお邪魔して、料理の説明をさせていただきます。少しでもアイヌのことを知って欲しいという思いで、歌やムックリもご披露しています。

大人になってから知れば知るほど、アイヌ文化は素晴らしいと思うようになりました。私は、アイヌはとてもやさしい民族だと思いますし、それを知ることにより深く理解が進むと思います。ウポボイなどを通して、多くの方にアイヌ民族のことをもっと知っていただきたいですね。

インタビュー全文掲載 ▶ [GoodDay北海道](#) [検索](#)

アイヌ関連施設

《アイヌ民族の歴史・文化を学ぶ》

北海道立北方民族博物館



アイヌ民族をはじめ、北海道、ロシア沿海地方、シベリア、アラスカ、北欧などの「北方民族」の文化を紹介する博物館。世界各国から集めた約900点もの資料を衣食住などのテーマ別に展示して、北方に暮らす人たちの歴史と文化を紹介しています。

時間 9:30～16:30 (7～9月は9:00～17:00)

定休 月曜(祝日の場合翌平日)、年末年始
7～9月及び2月は無休

住所 網走市字潮見309-1

《網走の歴史と文化・自然を学ぶ》

網走市立郷土博物館



独自の文化形態をもつモロコ貝塚のオホーツク文化資料や、江戸時代に漁場が開設されてからの郷土資料、その他網走地方の自然や産業を展示した「郷土を語る博物館」です。

時間 9:00～17:00 ※11～4月は16:00まで

定休 月曜、祝日、年末年始

住所 網走市桂町1丁目1-3

着る

現在、日常生活の普段着として、アイヌ独特の装いをすることはありません。いっぽう、自らのアイデンティティを示すものとして大切にされ、伝統的な儀式を行うとき、歌や踊りを披露するとき、あるいは卒業式や結婚式、仕事のプレゼンテーションを行うときなどには、独特の刺繍を施した着物や装飾品で正装して臨む人もいます。そのため、家族や自分が着るための晴れ着は現在でも作られています。近年の晴れ着は、主に木綿を素材に作られています。

アイヌ語地名

- 浦士別／うらしべつ(網走市)
→ウライ・ウシ・ベツ「梁・ある・川」
- 留辺蘂／るべしべ(北見市)
→ル・ベシ・ベ「道が・それに沿って下る・もの」
- 遠軽／えんがる(遠軽町)
→インカラ・ウシ・イ「眺める・いつもする・ところ」

〈引用〉
北海道立アイヌ民族文化研究センター編
『ボン コンビシ』9 アイヌ文化紹介小冊子「地名」
北海道アイヌ政策局アイヌ政策課ホームページ
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/ass/index.htm>

アイヌの伝承や 言い伝えには 意味がある。

上川アイヌ協会会長
伊澤 一浩さん(左) 伊澤 修一さん(右)

伝統を重んじて、これからもしっかり受け継いでいく。

キトピロ(アイヌネギ)がたくさんあるという意味の「キトウシ」という地名は、道内各地にあります。しかし今では、どこも根こそぎ採りつくされてしまいました。自然の恵みを大切に、次に残しておくというアイヌの考え方は今こそ見直されるべきです。

民家周辺に出没する熊の問題も、山の環境が悪いからです。堰堤の影響で鮭が川を上れなくなったことも、熊から食糧を奪っています。また、弁当の食べ残しなどを捨てたりエサをやったりすると、熊が駆除される原因になることも知ってほしいですね。

上川町の「北の森ガーデン」にあるチセ(家)は、上川地方に伝わるササを編んだチセです。しっかり作って手入れすれば、チセは30年くらい持ちます。また、チセを作るときは角もきちんと合わせる事が大事で、使い勝手を優先してはいけません。

上川アイヌは伝統を重んじて、しっかりと受け継いできました。伝承や言い伝えは、ちゃんと意味や理由がある先人の知恵。祭祀の時期なども、誰かの都合で勝手に変えられるようなものではないのです。



アイヌ関連施設

《アイヌ民族の歴史・文化を学ぶ》 川村カトアイヌ記念館



アイヌ民族の文化の正しい伝承を目的に、1916年に開館した日本最古のアイヌ資料館。アイヌの文化や習慣を伝える生活用具など貴重な資料が数多く展示されているほか、アイヌ文化を体験できる講習プログラムも人気です。

時間 9:30～17:00(7～8月は18:00まで)

定休 年中無休

住所 旭川市北門町11丁目

《アイヌ民族の歴史・文化を学ぶ》

旭川市博物館



「アイヌの歴史と文化に出会う」をテーマに、旭川市をはじめとした北北海道の歴史や文化、自然にかかわる資料を数多く展示しています。

時間 9:00～17:00(入館受付16:30まで)

定休 10月から5月の毎月第2・第4月曜(祝日の場合はその翌日)、年末年始、施設点検日

住所 旭川市神楽3条7丁目(大雪クリスタルホール内)

住む

住居《チセ》は、釘やネジを使わずに木の幹を柱とし、ヨシやカヤ、ササ、樹皮、割り板などを屋根や壁材に用いて作られました。《チセ》の中央よりやや入り口寄りに炉が作られ、家族の座る場所、寝るところ、調理をする場所、宝物や儀式の道具を置く場所などが決まっており、概ね二世帯(親子)単位で暮らしていました。炉では火種を絶やすことはなく、夏でも炉内ではほのかに火を燃やしていたと言われています。こうした《チセ》は、復元されて現存していますが、実際にそこで人が生活することはなく、専ら伝承された儀式を行う場や展示施設として使われています。

アイヌ語地名

- 層雲別/そうらんべつ(上川町)
→ソ・ウン・ベツ「滝・ある・川」
- 近文/ちかぶみ(旭川市)
→チカフ・ウン・イ「鳥・いる・ところ」
- 鬼斗牛/きとうし(旭川市)
→キト・ウシ「ギョウジャニンニク・多い・ところ」

〈引用〉

北海道立アイヌ民族文化研究センター編
『ボン カンピソ9 アイヌ文化紹介小冊子「地名」』
北海道アイヌ政策局アイヌ政策課ホームページ
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/ass/index.htm>